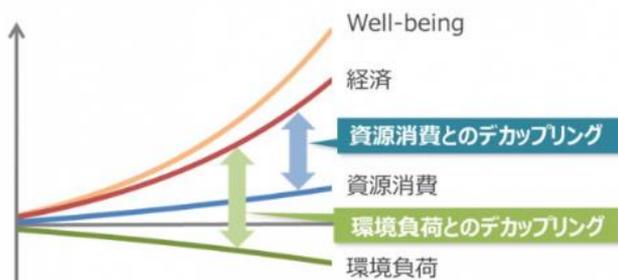


## 産官学で資源循環の実現を目指す 循環バリューチェーンコンソーシアムに参加

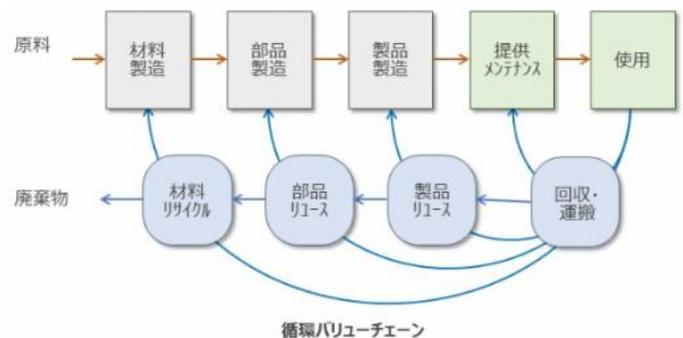
ガラスびんの製造販売を行う日本山村硝子株式会社（本社：兵庫県尼崎市、代表取締役社長執行役員：山村 幸治 以下、当社）は、循環型社会実現への貢献を目指し、ガラス分野における資源消費と環境負荷低減に向けて、資源循環技術の研究開発にかねてより取り組んでいます。このたび、当社開発技術の普及促進を目的とし、循環バリューチェーンコンソーシアム（以下、CVC コンソーシアム）の会員企業となりました。産官学で連携をしながら、カーボンニュートラル社会の実現に向け、ガラス原料の再資源化技術の研究開発を進めてまいります。

### ■CVC コンソーシアムについて

資源循環の実現を目的に、産学官での情報交換・議論・研究開発の場として2022年7月に設立されました。持続可能な社会の実現に向けて、Well-beingの向上と共に、生産・消費分野における資源消費と環境負荷の低減を目指し、資源循環技術の研究開発と社会実装のための活動を行っています。



UNEP (2011) Decoupling natural resource use and environmental impacts from economic growth, A Report of the Working Group on Decoupling to the International Resource Panel.



出典：早稲田大学オープンイノベーション戦略研究機構 Web サイト (<https://www.waseda.jp/inst/oi/news/1389>)

### ■当社が参加した背景

ガラスびんは3R（リデュース、リユース、リサイクル）すべてに対応している唯一の素材です。無機物であるガラスびんは、物質として変化・劣化することがないため、使用後は再生原料（カレット）化してガラスびんとして再生することができます。このように水平リサイクルへの適性が高いことはガラスびんの特長のひとつです。

ガラスびん産業が2050年カーボンニュートラル社会を実現するには、3Rを含むマテリアルリサイクルの高度化とともに、カーボンニュートラル等の脱炭素化技術の導入が必要となります。現在の水平リサイクルシステムを損なうことなく、ガラスびんがカーボンニュートラルを導入することで初めて、ガラスびん産業におけるサーキュラーエコノミーが実現されます。

資源循環の高みをさらに目指し、ガラス素材から地球環境に貢献するためには、多様な技術や素材の循環方式を適切に組み合わせ、社会システムに実装していく必要があると考えています。資源循環という社会課題に挑戦的に取り組むにあたっては、産官学の連携やパートナー企業との協力が重要になります。このような背景から、産学官で情報交換・議論・研究開発の交流を行うことを目的に、CVC コンソーシアムへの参加を決定しました。

#### ■今後の展望

当社グループでは、「人や社会とともに、環境に配慮しながら、安心・安全を提供し、未来に誇りを持って引き継いでいける、成長し続ける企業グループ」という長期ビジョンとしての“ありたい姿”に向けて、グループ一体となって取り組んでいます。CVC コンソーシアムへの参加によって、ガラス原料の再資源化技術の研究開発を促進させ、カーボンニュートラル社会の実現に貢献できる製品を提供するよう努めます。

◎本件に関するお問い合わせ先  
日本山村硝子株式会社 環境室  
TEL 06-4300-6060

以上